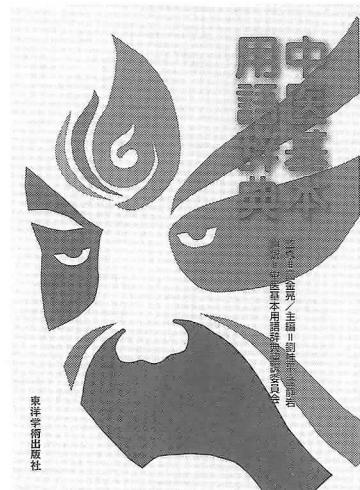


高金亮監修
『中医基本用語辞典』

日本TCM研究所 安井廣迪



『中医基本用語辞典』

日本の漢方医学と中国の中医学には非常に大きな相違がある。約400年前に日本で行われていた曲直瀬流の医学は、今では忘れ去られたようになっているが、この医学は中医学とほぼ同じ理論体系を持っていた。かつてはこれが日本の漢方医学の標準だったのである。

しかし、この曲直瀬流の医学の本を読んで理解できる人が果たしてどれだけいるであろうか。読めない最大の理由は、用いられている術語の意味が分からぬことであろう。かつては医学用語としても日常用語としても、ごく普通に使われていたこれらの語彙は、日本の漢方医学を実践・研究している人にとって、摩訶不思議な言葉として映るであろう。中医学には、当然ながら曲直瀬流によく似た用語が存在する。こちらは、現在の中国の医療や医学教育の場で日常に使用されているものである。英語を始め諸外国の言葉にも翻訳されており、もはや国際的にも標準の学術用語となりつつある。中医学用語は、すでにある程度日本に定着した感があるが、日本東洋

医学会の教科書から漢方医学に入った人たちにとっては、これもまた摩訶不思議な言葉であろう。

この問題を解決してくれる辞典が登場した。それが本書である。これまでにも、中医学用語を解説する良い辞書は存在した。例えば、創国会学術部主編『漢方用語大辞典』(療原書店 1984)は約一万七千字の用語について凡そ百にのぼる諸文献を網羅して作成されており、これも充実した内容である。

さて、この『中医基本用語辞典』はどのような辞典なのであろうか。先の先輩辞書たちに比べて、どのような特色を持つ

いるのであろうか。

本書は、約三五〇〇語の中医学用語を収録し、それぞれの意味するところを記述する。日本漢方の用語に関しては、中医学用語と共に用語の意味が分からぬことであろう。かつては、執筆に当たった若手の研究者の意気込みを感じさせるもので、きわめて詳細である。項目の内容は、中医学的生理解剖学・病名・証候名・病因病機・治法・鍼灸などに関する各用語で、それらを50音順に記述・解説する。

本書の作成に際し、東洋学術出版社の編集陣は、本書が出来るだけ読みやすくなるようにさまざま工夫を凝らしている。それは凡例に詳しく書かれているが、概要を紹介すると以下のようである。

まず、50音順に書かれた見出し語の後に、関連する子見出し語が解説と共に附され、更にその関連の語が孫見出し語として書かれている。子見出し、孫見出しの語のタイトルは、それぞれ50音順の見出し語のところにも配列されているため、これらから引くことも出来る。便利であると同時に、数ページを読むだけである程度まとまつた知識が得られるのはうれしい。

また、全ての語に読み仮名が付されている。中医学用語の發音はまだ日本で定着していないし、これからも統一するのは難しいと思われるが、本書では、これまでの経験に基づき、適切な読み方を提供している。季刊誌『中医臨床』の27年の歴史の重みがここに感じられる。

執筆者は、いずれも、現在第一線で活躍中の中医師である。監修に当たられた高金亮先生は、天津中医学院院長、天津中医药研究院院長を歴任され、現在は天津現代脾胃病医院の院長として診療・研究に多忙な生活を送つておられる。この辞書は、高金亮先生をトップとする同門の人たちによって編纂された。内容の長短はさまざまでも、記載の方程式に貫通性のあるのは、そういう理由によるものであろう。

翻訳に当たられた人たちは、それぞれの分野で活躍しておられるのみならず、翻訳のベテランの方ばかりである。読みやすい日本語で、全く違和感はない。

この辞典に欠点があるとすれば、それは解説が詳しそうである。辞典の記述が詳しいのは重要なことである。詳しければより深くその内容を理解することが出来るからである。しかし、簡潔にそれを理解しようとするとき、煩雑な記述はかなえて邪魔になる。この辞書の記述には、研究者が不可解な謎を考究するように細部にこだわりすぎる部分があり、それが、

パツと見て瞬時に理解させる点に欠ける、ということにつながっている。

日本の読者にはこんなことは不要ではないかという項目や記述の見られるのも、しいて言えば欠点かもしれないが、やはり辞典は詳しいほうが多い。本書が、年月を経て更に多くの語彙を収録するに至ったとき、これらの記述が真に生きてくるのであろう。ただ、西洋医学を身に付けた人がこの辞典を読んだ場合、臨床の内容が、自分の実際の臨床のどの部分を指しているのか、はつきり分からぬところも無いではない。

この辞典は、現在のところ、万能の辞典を目指しているのではなく、現代中医学書(中国語の原文でも日本語に翻訳されたもの)を読むときに必要な知識を供給するということに特化しているようである。そのように考えて本書を使えば、決して失望することはないであろう。万能辞書はこれまでにもあつたが、このような目的に特化した辞典は、本書が最初なのだから。

〔東洋学術出版社・A5判872頁、税込8,400円〕

漢方関係学会・研究会予定 (2月)

● 奥学会2月講座

日 時 2月1日 (木) 午後7時～8時半
会 場 昌平クリニック (文京区湯島2-1-5 朝日信金ビル)
内 容 田畠隆一郎著『よくわかる金匱要略』総論 (鍋谷欣市)

● 東京漢方教育研究センター2月講座

日 時 2月11日 (日) 午前10時半～午後5時
会 場 早稲田国際会議場3F (新宿区西早稲田)
事務局 三重県名張市榎町140-1 田中余以徳齊薬局 ☎ 0595-63-0238
内 容 特別講座「免疫力と東洋医学」(安保徹)、「諸病源候論」解説(越智秀)、「处方解説・冠心2号(久保田敏子)」、「本草学の学び方(長沢元夫)」、「医療行政(三上正利)」

日 時 2月11日 (日) 午後7時～8時半
会 場 共立薬科大学251教室 (港区芝公園)
内 容 名古屋玄医の金匱要略注解(栗島行春)、「食物本草」(角田睦子)
事務局 国立市東4-1-17 漢方サロン宝寿庵薬局内 ☎ 042-577-3985
9 2 5

● 東洋医学遺学古典研究会金匱要略研究会

日 時 2月11日 (日) 午前10時半～午後4時
会 場 共立薬科大学251教室 (港区芝公園)
内 容 中医学基礎講座・気不統血証・弁証論治の基礎・脳卒中(陣内秀喜)
事務局 東京都台東区東上野6-5-11(有)カイセイ内 FAX 03-5827-8548
5 8 2 7 - 8 5 4 8

● カイセイ中医学講座2月講座

日 時 2月11日 (日) 午前10時～午後4時15分
会 場 ミクニ・イーストビル7F (千代田区外神田)
内 容 中医学基礎講座・気不統血証・弁証論治の基礎・脳卒中(陣内秀喜)
事務局 東京都台東区東上野6-5-11(有)カイセイ内 FAX 03-5827-8548
5 8 2 7 - 8 5 4 8

● 第33期東海漢方協議会2月講座

日 時 2月11日 (日) 午前10時～午後5時

連絡先 市川市塩浜4-2-8-202 恩明会塩浜宮崎病院・宮崎瑞明 FAX 047-398-0011

● 第58回傷寒論研究会

日 時 2月4日 (日) 午前9時半～午後3時
会 場 札幌フコク生命9F (札幌市中央区北4条東1-2-3)
内 容 吉益南涯著『続建殊録』解説(谷岡富美男)

事務局 (株)ツムラ医薬札幌第一営業所・新道公仁 FAX 011-42-5252

● 系統中医学講座2月講座

日 時 2月4日 (日) 午前9時半～午後4時半
会 場 東京CRO (文京区後楽2-1-TL飯田橋ビル)
内 容 4日目基礎理論編・生薬処方解説編、18日目生理・病態・治療編・弁証・症例分析編(仙頭正四郎)

事務局 東京都中央区日本橋本町1-6-1 小太郎漢方製薬東京支店 ☎ 03-3231-2340

● 平成18年度ウチダ漢方研究会2月講座

日 時 2月8日 (木) 午後1時半～4時半
会 場 東京薬業健保組合健康開発センター(台東区東上野1)
内 容 4日目基礎理論編・生薬処方解説編(仙頭正四郎)
事務局 東京都荒川区東日暮里4-4-10 ウチダ和漢薬 ☎ 03-3806-3846

● 日中医薬研究会関西支部2月例研究会

日 時 2月10日 (土) 午後1時～11日 (日) 午後5時
会 場 ぱるるプラザKyoto (JR京都駅とバスターミナル隣接)
内 容 平成薬證論解説(人参)及び生薬の鑑別・基礎講座・水剤、原点ー(田畠隆一郎)、エキス剤による漢方治療の実際(蓮村幸児)ほか

事務局 東京都荒川区東日暮里4-4-10 ウチダ和漢薬 ☎ 03-3806-3846

● 第16期京都漢方研究会2月講座

日 時 2月11日 (日) 午前10時半～午後4時
会 場 京都薬科大学愛学ホール(京都市山科区御陵中内町)
事務局 名古屋市千種区松軒1-5-12 大晃生薬 ☎ 052-722-2206

● 第16期京都漢方研究会2月講座

日 時 2月11日 (日) 午前10時半～午後4時
会 場 京都薬科大学愛学ホール(京都市山科区御陵中内町)
事務局 名古屋市千種区松軒1-5-12 大晃生薬 ☎ 052-722-2206

● 福山大学漢方研究会2006

日 時 2月16日 (金) 午後7時半～9時
会 場 福山大学薬学部31号館1F (福山市学園町1)
内 容 漢方基礎講座(高橋宏利)、知つておきたい生薬(松田久司)、婦人科における痛みと漢方(浮田徹也)
連絡先 福山市学園町・福山大学薬学部漢方薬物解析学・岡村信幸 ☎ 0849-36-2112-5165

● 温知会2月講義

日 時 2月17日 (土) 午後6時～9時
会 場 湯島聖堂・斯文会(文京区湯島1-4、御茶の水駅至近)
内 容 招待講演「医学名詞『詮』『症』『微規範』の探討」(朱平)、傷寒論素読(糸川義雄)、後世要方解説(平馬直樹ほか)
事務局 東京都北区西ケ原4-48-6 大貫進 ☎ 03-3910-4822

● 第50回京都古方漢方研究会

日 時 2月17日 (土) 午後7時～9時半